

2025年1月24日

システムワークフロー検討作業部会

システムワークフロー検討作業部会 2024年度活動報告

1. 活動概要

第40回これからの学術情報システム構築検討委員会において承認された「活動計画」を基に、タイトルリスト (JUSTICE) と電子ブックメタデータ (国内) の正式公開、「コーディングマニュアル」および「目録情報の基準」の改訂等を行った。その他を含め、2024年度の各班の主要な活動については、以下のとおりである。

2. 活動内容

1. デジタルアーカイブ班

・活動概要

(1) ユーザーグループ SNS イベント「国内電子ブック&デジタルアーカイブのメタデータ流通促進」での説明 (デジタルアーカイブ)

(2) メタデータのマッピングテスト (デジタルアーカイブ)

・活動詳細

(1) デジタルアーカイブ×メタデータ勉強会 (デジタルアーカイブ)

ユーザーグループ運営作業部会と協力し、オンラインイベント「デジタルアーカイブ×メタデータ勉強会」を4回実施した。毎回、さまざまな機関・グループから講師を招いてデジタルアーカイブのメタデータに関する発表を実施し、課題に対処するための意見交換をおこなっている。

(2) メタデータのマッピングテスト (デジタルアーカイブ)

「電子リソースデータ共有サービス」をつなぎ役として、JPCOARスキーマに対応していないデジタルアーカイブのメタデータをIRDBに流通させることを想定した。そのうえで複数機関からサンプルとして選び出したメタデータについて、「電子リソースデータ共有サービス」に取り込むために、MARC21へのマッピングの検討をおこなっている。

2. 目録・メタデータ班

・活動概要

(1) 「NCR2018適用細則案」に基づいた「コーディングマニュアル」と「目録情報の基準」の改訂案を公開すること

(2) 新しい「コーディングマニュアル」と「目録情報の基準」に基づいた目録システム教材を作成、研修を実施すること

(3) 2024年10月をめどにNCR2018の適用を開始すること

・ 活動詳細

(1) 「NCR2018適用細則案」に基づいた「コーディングマニュアル」と「目録情報の基準」の改訂案を公開すること

「NCR2018適用細則案」に基づいた「コーディングマニュアル」と「目録情報の基準」の改訂作業を進め、NCR2018適用に先立って、9月9日に「コーディングマニュアル」と「目録情報の基準」を公開した。9月13日に「NACSIS-CAT・NCR2018適用はじまる：コーディングマニュアル・目録情報の基準改訂説明会」を実施した。

(2) 新しい「コーディングマニュアル」と「目録情報の基準」に基づいた目録システム教材を作成、研修の実施

「コーディングマニュアル」内容と目録システム教材との整合性の確認を行い、11月19日に図書館総合展イベントとして「ポイント解説！：NCR2018対応 セルフラーニング教材」とユーザーグループイベント「みんなで目録の夢を見る」を実施した。

(3) 2024年10月をめどにNCR2018の適用を開始すること

10月31日にNCR2018適用を開始し、適用に関するコーディングマニュアル等の質問対応を行っている。

3. ILL・電子ブック班

・ 活動概要

(1) 次期ILLシステムの機能強化に向けて料金決済モデルの検討、NII担当者やユーザーグループとの情報共有・意見交換、電子的送信に関する調査・調整を行い、次期ILLシステムに求める要件を具体化すること

(2) 次期ILLシステムの中で、シェアードプリントの実現に必要な要件を具体化すること

(3) 次期ILLシステムの中で、DDSやRapidILL等の新たなシステムの導入について検討を行うこと

(4) 共同利用システム上で実現する統合的発見環境に関する検討を行うこと

(5) 書誌データ提供の調整とデータ検証（電子ブック）

・ 活動詳細

(1) 次期ILLシステムの機能強化に向けて料金決済モデルの検討、NII担当者やユーザーグループとの情報共有・意見交換、電子的送信に関する調査・調整を行い、次期ILLシステムに求める要件を具体化すること

次期ILLシステムへの要望等についてNII担当者とスケジュール等を確認した。2024年11月20日に図書館総合展2024 図書館システム・ネットワーク ユーザーグループイベントを実施し、外部システムとの連携や新しい料金決済制度について、ユーザーグループ参加機関メンバーと対話を実施した。

(2) 次期 ILL システムの中で、シェアードプリントの実現に必要な要件を具体化すること

次期 ILL システムの検討を重点的に行ったため、本活動は次年度以降に繰り越すこととした。

(3) 次期 ILL システムの中で、DDS や Rapid ILL 等の新たなシステムの導入について検討を行うこと

項番 (1) の図書館総合展イベントにおいて、DDS や Rapid ILL 等の外部システムについて、意見交換を行った。

(4) 共同利用システム上で実現する統合的発見環境に関する検討を行うこと

次期 ILL システムの検討を重点的に行ったため、本活動は次年度以降に繰り越すこととした。

(5) 書誌データ提供の調整と各種検証（電子ブック）

前年度までの国内電子ブックのプラットフォームベンダーと書誌データ提供に関する折衝や各種調整の成果を受けて、電子リソースデータ共有班と調整のうえ「電子ブックメタデータ（国内）」を 2024 年 9 月 30 日に正式公開した。

4. 図書館システム整備班

・ 活動概要

(1) 「図書館システムガイドライン」の検討

・ 活動詳細

(1) 「図書館システムガイドライン」の検討

複数大学での図書館システム共同調達を想定し、図書館システムに求める要件を利用機関の規模等を加味して具体化した「図書館システムガイドライン」の検討を行った。2023 年度までの検討を踏襲し、2024 年 5 月 22 日までに「図書館システムガイドライン（評価版）」（全 13 カテゴリ）としてすべてのカテゴリを公開し、Discord を用いたユーザーグループの「dx 化時代の図書館システムガイドライン」チャンネルで意見徴収を開始した。

また、後述の図書館システムベンダーへのアンケート・個別の意見交換、図書館総合展で受けたフィードバックを踏まえて内容を調整し、これから委員会での審議・公開に向けた準備を行った。

図書館システム関係ベンダー 25 社に「図書館システムガイドライン（評価版）」を共有し、フィードバックを得ることを目的としたアンケートを実施し、7 社（9 件）の回答があった。回答があったなかで 4 社とは個別に意見交換を行い、フィードバックに関して詳細を確認した。

図書館総合展 2024 において、図書館システム・ネットワーク ユーザーグループイベント内でライブイベント「図書館システムガイドラインの現状について」（11 月 18 日（月）10:30～12:00）を開催した（申込者数は 266 名）。「図書館システムガイドライン（評価版）」に対して、フィードバックを反映した「図書館システムガイドライン（案）」を紹介するとともに、「図書館システムガイドライン（案）」のなかから、一例

として「電子リソースデータ共有サービス」とのシステムの連携を取り上げ、図書館利用者への学術情報の提供がどう DX 化されるのかを提示した。

5. 電子リソースデータ共有班

・ 活動概要

- (1) 「タイトルリスト (JUSTICE)」の正式公開
- (2) 「電子ブックメタデータ (国内)」の正式公開

・ 活動詳細

- (1) 「タイトルリスト (JUSTICE)」の正式公開

JUSTICE および学術コンテンツ課と調整しつつ、JUSTICE 提案を基にしたタイトル情報について、JUSTICE 会員館がダウンロードサービスを介して利用が行えるように、2024 年 5 月 24 日より「タイトルリスト (JUSTICE)」の正式公開を開始した。

- (2) 「電子ブックメタデータ (国内)」の正式公開

国内電子・デジタル資料検討班と調整しつつ、電子ブックのプラットフォームベンダーから提供されたメタデータと、openBD から入手したメタデータを統合し、共有するための「電子ブックメタデータ (国内)」を 2024 年 9 月 30 日より正式公開した。

6. ERDB-JP 運用作業班

・ 活動概要

ERDB-JP の定常運用を行った。運用が安定しているため、本年度で本作業班の活動は終了する。

・ 活動詳細

ERDB-JP 統計 (2024 年 12 月 27 日現在)

- ユーザ数：
 - パートナーA : 158
 - パートナーB : 94
- コンテンツ数 : 53,846 タイトル

以上